

# 2014 年度 IWC/日本共同北太平洋鯨類目視調査の終了について —IWC-POWER 調査航海—

2014 年 9 月 1 日  
日本鯨類研究所

## 1 経緯

本調査は IWC（国際捕鯨委員会）と我が国が共同で実施しているもので、IWC では通称 POWER(Pacific Ocean Whale and Ecosystem Research)と呼ばれています。

この調査は世界的に成功例として高い評価を得ており、2009 年度まで南極海で行われていた IWC の調査 IWC/SOWER(International Whaling Commission-Southern Ocean Whale and Ecosystem Research：南大洋鯨類生態系調査、1996/97 年度～2009/2010 年度)での経験と実績を踏まえ、そのノウハウ等を活用して、2010 年度より IWC と我が国が共同で実施している調査です。

IWC/POWER は、2010 年より、IWC 科学委員会の主要課題に則した調査を実施しており、昨年までの調査では、過去数十年にわたって広域的調査が実施されてこなかった北緯 40 度以北のアラスカ湾海域において、多数のナガスクジラやイワシクジラを発見し、客観的な資源評価に貢献する貴重なデータを収集しました。今回は、第 5 回目の調査航海となり、昨年までの調査海域のさらに西側（北緯 30 度以北、同 40 度以南）において調査を実施しました。商業捕鯨時代以降調査が行われていない北東太平洋沖合海域において鯨類の発見がどの程度あるのかについて、内外の鯨類研究者から注目を集めています。また本年度は、長年の懸案であった米国 EEZ 内でのバイオブシー標本採取が可能となるなど、国際調査としての実績を踏まえ、関係国の協力体制がより強化されています。

## 2 調査計画と結果概要

本件目視調査は、IWC と日本国政府が共同で実施するもので、IWC 科学委員会が調査計画の策定を行い、同委員会内に設置された POWER 運営グループ（議長：東京海洋大学：加藤秀弘教授）の主導の下、水産総合研究センター国際水産資源研究所や米国 NOAA/NMFS アラスカ漁業科学センター等関係機関が協力して、具体的な調査航海計画の立案を行いました。同運営グループは、調査結果の分析についても、これを主導します。

今回の調査では、北東太平洋の公海において 60 日間にわたり目視調査を実施しました。このような長期間にわたり広大な海域を目視調査できる能力は、現在のところ日本の鯨類調査船しか有していません。IWC 主導による我が国の国際的な貢献として、今後も北太平洋における鯨類目視データの空白海域で調査を行っていくことが、商業捕鯨で大きく減少した鯨類資源の回復動向を知る上で大変重要となります。調査航海は、水産庁からの委託を受け、（一財）日本鯨類研究所が実施しました。本年の調査の結果、以下のとおり、調査海域内で多数のニタリクジラを発見し、同資源の頑健さを確認するとともに、発見個体の大部分から DNA 標本を採取することに成功しました。調査結果の詳細は明年の IWC 科学委員会年次会議にて発表されます。

### 2.1 主要調査目的：

- (1) ニタリクジラ、イワシクジラ、ナガスクジラ、その他の資源量推定
- (2) ニタリクジラ、イワシクジラ、ナガスクジラ、ザトウクジラ及びマッコウクジラ（及びその他の鯨種）の系群構造に関する情報の収集（特にバイオブシー・サンプル（皮膚組織標本）の採取及び個体識別写真）
- (3) 北太平洋セミクジラ、シロナガスクジラ等希少鯨種の個体識別写真撮影及びバイオブシー・サンプルの採取

2.2. 航海期間：2014 年 7 月 2 日（塩釜出港）－8 月 30 日（塩釜入港）（全 60 日間）

2.3. 調査海域：北緯 30 度以北、同 40 度以南、東経 170 度以東、西経 160 度以西（公海および米国 EEZ を含む）図 1 参照。

### 2.4. 国際調査員：

松岡耕二（日本・調査団長・（一財）日本鯨類研究所）  
Sally Mizroch（米国・NOAA/NMFS アラスカ漁業科学センター）  
Jessica Taylor（英国・IWC 選任国際調査員）  
吉村勇（日本・IWC 選任国際調査員）

2.5. 調査船：第三勇新丸（(742トン)、(株)共同船舶所属、山内善行船長以下（17名））

2.6. 総探索距離：3,762海里（約6,967km）

2.7. 主要な発見鯨種：

シロナガスクジラ 1群 1頭、イワシクジラ 1群 1頭、ニタリクジラ 118群 140頭、マッコウクジラ 78群 155頭、シャチ 1群 3頭、ハナゴンドウ 8群 140頭、スジイルカ 5群 420頭、マダライルカ 6群 436頭、マイルカ 42群 1,747頭

2.8. サンプル採取結果等

(1) 個体識別写真撮影（個体数）

シロナガスクジラ 1頭、ニタリクジラ 69頭、シャチ 3頭

(2) バイオプシー・サンプル採取（個体数）

シロナガスクジラ 1頭、ニタリクジラ 78頭、シャチ 1頭

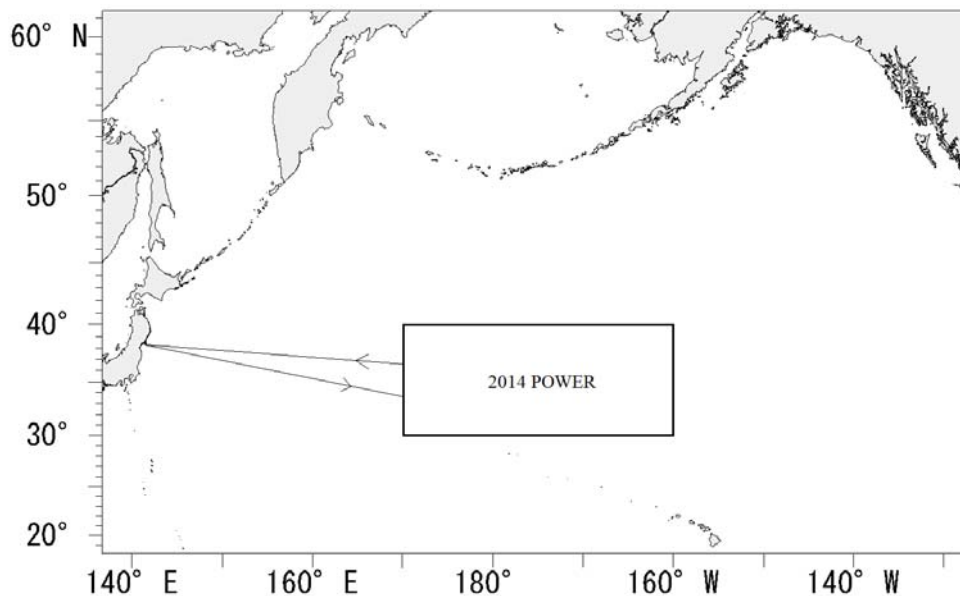


図1. 2014年の調査海域。

写真：2014 年度調査の様子



浮上直前のニタリクジラの親子



船に接近してくるニタリクジラ



浮上したマッコウクジラの親子



バイオペシー実験風景（海中を遊泳するニタリクジラ）



シャチの群れ



北東太平洋最東端にて（第三勇新丸船橋後方デッキにて）